

窓

—同窓会だより—

No. 118 (令和7. 2. 28発行)

富山県立魚津高等学校同窓会



- 1面 同窓会寄稿
- 2面 同窓会寄稿
- 3面 同窓会寄稿
- 4面 海外研修報告、魚高生の活躍、お知らせ



時代の変化と新たな学び

東京学芸大学大学院教授 大谷 忠 (魚高42回)

この度、母校の同窓会報に執筆の機会を頂いたこと、心より感謝申し上げます。私が魚津高校に入学したのは、第2次ベビーブームの中、同じ高校生が200万人いた頃でした。魚津高校は1学年7クラスあったかと思えます。本校は、私が生まれた富山の東端から電車で通える学校であり、野球で甲子園に行ったことがある進学校、また父、兄弟や従妹が通っていた学校だったこともあり、この学校に決めました。魚津高校は古くから文武両道を掲げており、私も凡人の力を振り絞って、勉強と野球の両方に取り組む毎日でした。努力足らずか、勉強も野球もままならず、進学できる大学もなく、担任のしようこちゃん(高見先生)や水井先生にいろいろご迷惑をおかけしたのを覚えています。ただ、魚津高校では勉強や野球以外にも、たくさん楽しめる場面があり、体育祭や文化祭に一生懸命打ち込んだのを今でも覚えています。

現在、私は東京にある教員養成の大学で勤めています。もともと富山に帰って中学校の技術の先生になる約束でしたが、教員採用試験も不採用だったこと、もっとテクノロジー(技術)を知りたくて、研究の世界に飛び込みました。東京学芸大学では、多くの人が教科を専攻し、教科の専門性を高める教育と教授法を学ぶ教育が並走しながら教員を養成しています。このような独特の教員養成法が全国の教員養成大学・学部で展開されていることから、私も大学では木質材料工学と教育学に関する学位を取得し、大学での教育・研究に携わっています。現在、世界では第4次産業革命を迎え、デジタル化の波が押し寄せ、日本の教育や教員養成の在り方自身が大きく変化しようとしています。以前200万人いた高校生は半分以上に減少しており、我が母校もそのような変革期にあると察します。このような過渡期の中、真の文武両道の精神が根付いている魚津高校だからこそ、自由な発想の下、富山で新たな学びを生み出せることを期待しています。

令和六年度 魚津高校同窓会

平 雄 造 (魚高55回)



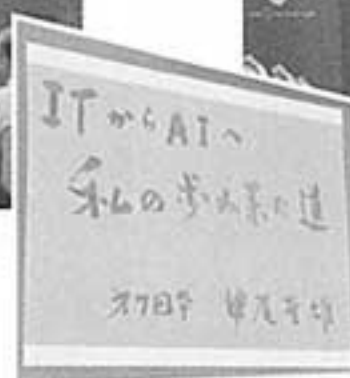
8月10日、ホテルグランミラージュに約120人が集まって開催された魚津高校同窓会。新型コロナウイルス禍を乗り越えて開催された昨年度の同窓会を引き継ぎ盛大に行われた。

総会では大田弘会長から「人間がこれまで培ってきた知恵をしっかりと受け継いでいけるかどうかは日本人の運命がかかっている。同窓会についてもこれからのあり方を考え、どう次世代に引き継いでいくかを議論したい」と挨拶があった。その後、亀谷卓朗校長が日頃の魚津高校の教育活動報告を行い、村椿晃魚津市長も祝辞を述べた。

講演会は、中尾哲雄名誉会長が「僕の心の根っこ 魚津高校」と題して高校時代のエピソードと、「ITからAIへ」時代が移り変わる中で心に刻まれた経験を語った。

懇親会は、大田会長の挨拶の後、上田英俊代議士(35回卒)が「現役生を応援することも一つの役割」と祝辞を述べ、上野唯泰東京魚高会副会長の乾杯の音頭で開幕した。それぞれが思い出話を語り合ったり、世代を超えて交流したりと和やかな雰囲気の中、温かい時間を過ごすことができた。懇親会の終盤に、55回生の当時の応援部員が指揮をとり、出席者全員で声高らかに校歌を斉唱した。「紅は我が心」の歌詞のもと、会場が一つになる様子には込み上げるものがあつた。最後は長谷川光一副会長の発声で万歳三唱すると、亀谷校長がお返しの方歳をおこない、盛会のうちに閉会した。

現在、世の中の情勢はめまぐるしく移り変わっている。また、新型コロナウイルス禍以降、人と人との繋がりを作ることが難しくなったとも言われている。そのような状況の中、実際に集まって世代を超えて人々が交流する同窓会の場は意義深い。今年度は集客の際にSNSやオンラインを活用したり、執行部役員に若手8人を任命したりなど、同窓会をこれからも長く続けていくために「変化」に挑戦した。魚津高校同窓生に脈々と受け継がれる「紅魂」が、これからも光輝くことを期待している。



受け継がれていく 紅の精神



伊 林 真 弓
(上林) (魚高56回)

令和6年度の魚津高校同窓会が8月10日に開催され、次年度代表幹事として参加させていただきました。

同窓の諸先輩方に恐縮しながら聞かせてきた懐かしい響き。「紅は我が心」。卒業後に各方面で活躍されている皆の青春に根付いていたこの言葉。卒業からはや21年が経ち、仕事、育児、家事に追われる生活で、大切なことを忘れていたように思います。

幼い頃から野球を見るのが好きで、小中学校ではソフトボールをプレーヤーとして頑張っていました。高校では、念願の野球部のマネージャーとなり、今思い出しても、青春の真ただ中、自分の好きなことをただひたすらにできる幸せを感じていたように思います。公式試合で



飛び込む勇氣

浜田 泰友 (魚高48回)

魚津高校48回卒の浜田です。魚津高校時代は理数科でコンピュータークラブに所属していました。インターネットが普及していない時代にパソコンを手に入れ、何もわからないまま夢中に触っていた日々を覚えています。

大学進学を経て県外へ転出し、プログラムを書く仕事に就きました。長い通勤時間を活用して読書に没頭する中、歴史好きが高じてさまざまな時代の政治に興味を持つようになりました。そこから現代の政治への関心につながっていきます。地元に戻って30歳で魚津市議会議員選挙に挑戦しました。幸いにも当選し、現在は5期目の議員生活を歩んでいます。

地元魚津に戻ってからは魚津高校同窓会の皆さんには大変お世話になっています。世代を超えたつながりの中で、語り合える場があることを本当にありがたく感じています。その中で、ときおり耳にする言葉があります。

「飛び込み台から飛び込んでいない奴は魚高生とは認めない」

私たちの時代には、あの飛び込み台があったプールは体育館へと変貌していました。もしかしたら私は魚高生とは認められない可能性はある？確かにこういった話で盛り上がるのは魚津高校っぽい！

飛び込み台からの飛び込みは、ただの行動ではありません。それは、挑戦する精神や新しい一歩を踏み出す勇氣の象徴だと感じます。そして、それこそが魚津高校らしさではないでしょうか。

今、私は市議会議長の職にあります。言葉だけでなく、行動で故郷の発展に尽くす責務を感じています。魚津高校の後輩の皆さん。一度外に出て、いろんな世界を見てほしい。そして、いつか自分にとつての「飛び込み台」を見つけ、自分が選んだ道を魚津高校らしく力強く進んでほしいと思います。

は、点数が入ると応援部が中心となり、肩を組んで校歌を歌いました。まさに全体懇親会でその光景が再現され、懐かしさとともに心の奥に眠っていた紅の心が鮮明に蘇ってきました。

小学校3年生の長男は、期せずして野球のチームに加入し、練習日を待ちわびるほど熱心に取り組んでいます。送迎や洗濯など、親に課される仕事は多いですが、子どもも親も野球好きなら楽しいものです。我が子にも「好きならとことん楽しむ」ことを体験し、将来の糧としてほしいと願っています。

令和7年度同窓会が8月に開催される予定で、諸先輩方にご指導をいただきながら盛大な会となるよう準備を進めているところです。さまざまな分野で活躍されている同窓生が一堂に会し、「紅は我が心」という熱い精神でつながっていることを、歴史ある魚津高校同窓生の一員として次の世代につないでいけたら幸いです。



第6回海外研修報告

廣川 知己(魚高32回)

12月6日(木)から14日(土)の日程で行われた海外研修に小川理香教頭(魚高39回)とともに同行した。参加生徒は、一年生は29名、二年生は8名、計37名であった。昨年同様カナダのバンクーバーでホームステイの体験をしながらの研修となった。主なプログラムの内容は、高校での語学研修や現地の高校生との合同授業体験、ブリティッシュコロンビア大学やブリティッシュコロンビア工科大学の見学、現地日本人起業家の講演会、日本文化を紹介するプレゼンテーションであった。

昨年の約2倍の人数を引率することになり、体調不良者や種々のトラブルの発生に不安を感じていたが、生徒たちの自覚と意欲の表れか、順調に研修日程を終えることができた。同窓会からは、「紅奨学金」より多額の支援金をいただくことで、円安の影響を緩和することができ、感謝申し上げるとともに、支援金贈呈式で大田会長からいただいた激励の言葉を受けて、参加生徒たちが積極的な姿勢で研修に臨んでくれたことをありがたき思った。また、東京支部の美浪氏には事前研修で、豊富なバンクーバー経験を生徒に伝わったと感じた。

同窓会や保護者をはじめ、様々な支援のもと、魚高生がこのような海外研修を体験できることをうれしく思うとともに、この研修に同行する機会をいただいたことに感謝申し上げたい。今後も充実した海外研修が実施され、世界で活躍する魚高生の育成に寄与されることを祈念したい。



魚高生の活躍 (令和6年8月～令和7年2月)

○陸上競技部

・第61回富山県高等学校新人陸上競技対校選手権大会

女子800m	3位	北信越大会出場	川尻 悠加	2-4
女子400m	4位	北信越大会出場	前田 望実	2-1
男子3000m障害	4位	北信越大会出場	濱田 琉惺	2-2
女子200m	6位		前田 望実	2-1
女子1500m	6位	北信越大会出場	川尻 悠加	2-4
男子ハンマー投	6位		池田 勇心	2-4
男子800m	7位		濱田 琉惺	2-2
女子4×400mリレー	7位	前田 望実(2-1) 川尻 悠加(2-4) 本堂 珠々(1-1) 高山 夏蓮(1-4)		
女子走幅跳	8位		本堂 珠々	1-1

・第75回富山県高等学校駅伝競走大会

男子	6位
----	----

○男子ソフトテニス部

- ・令和6年度富山県ジュニアソフトテニス選手権大会 団体2位
- ・令和6年度富山県高等学校秋季ソフトテニス選手権大会 個人 ベスト8 北信越大会出場 藤森 駿平 2-1 高松 誠生 2-2 シングルス 3位 藤森 駿平 2-1
- ・令和6年度富山県高等学校新人ソフトテニス選手権大会 団体 3位

○男子バレーボール部

- ・令和6年度富山県高等学校秋季バレーボール大会 ベスト8
- ・令和6年度新川地区高等学校秋季新人バレーボール大会 優勝

○女子バレーボール部

- ・令和6年度新川地区高等学校秋季新人バレーボール大会 優勝

○男子バドミントン部

- ・第33回富山県高等学校1年生バドミントン選手権大会 シングルス 優勝 森山 羽空 1-4

○吹奏楽部

・第46回新川地区アンサンブルコンテスト

金管八重奏	金賞	地区代表
サクソ四重奏	金賞	地区代表
フルート四重奏	金賞	
クラリネット四重奏	金賞	
打楽器四重奏	金賞	

○放送部

・第71回NHK杯全国高校放送コンテスト

ラジオドキュメント部門 制作奨励

・第36回富山県高校文化祭放送部門発表会

アナウンス部門	優良賞	酒井 咲衣	1-4
朗読部門	優良賞	水野 葵	2-4
ビデオメッセージ部門	優秀賞	上原 唯葉	2-3
		寺崎 心泉	2-4
		大角 彩純	2-3
		丸山 美月	2-4

○音楽部

・第18回声楽アンサンブルコンテスト

全国大会出場

○書道部

・第49回富山県青少年美術展

書部門	金賞	溝口 菜侑	3-3
-----	----	-------	-----

○美術部

・第16回環境教育ポスターコンクール

環境大臣賞	梅川珠美礼	2-1
-------	-------	-----

・第36回富山県高校文化祭

美術・工芸部門	奨励賞	梅川珠美礼	2-1
---------	-----	-------	-----

○写真部

・第48回全国高等学校総合文化祭

写真部門	優秀賞	上原 唯葉	2-3
------	-----	-------	-----

○家庭部

・第45回学校茶道エッセイ

生徒の部	第一席	長谷野ゆい	3-4
------	-----	-------	-----

○高志の国文学情景作品コンクール

文芸部門(高校生の部)	佳作	湊谷 優花	1-3
-------------	----	-------	-----

○ビブリオバトル2024 富山県大会

優秀賞	久才 幸翼	2-3
-----	-------	-----

○とやま科学オリンピック2024

数学分野	銀賞	堀田 蒼士	2-1
数学分野	銀賞	柚木 翔太	2-1

原稿募集のお願い

本校同窓生で「こんな方を知っている」「こんな方が活躍している」という方はいませんか? 自薦・他薦は問いません。原稿をお寄せ下さる方募集しています。

富山県立魚津高等学校同窓会

〒937-0041 富山県魚津市吉島945番地

TEL (0765) 22-0221

FAX (0765) 22-9970

同窓会ホームページ

<http://uozu-dosokai.net>

魚津高校ホームページ

<https://www.uozu-h.tym.ed.jp>